

# ハットフィールド会計学成立の背景

梅 田 勝 利

## 目 次

- 1 はじめに
  - (1) 1890年代のシカゴ
  - (2) シカゴ大学の発展
- 3 シカゴ大学博士課程における研究とワシントン大学での教師の経験
- 4 シカゴ大学の教員としてのハットフィールド
- 5 ジェームズとシェアーの役割
- 6 おわりに

### 1 はじめに

従来、ハットフィールドの会計学そのものに関する研究は行われてきたが、その人となりは必ずしも研究されていないように思われる。本稿は、2000年に出版されたゼフ Stephen A. Zeff の「Henry Rand Hatfield: Humanist, Scholar ; and Accounting Educator」に拠りつつ、19世紀末から20世紀初頭にかけての社会的背景とハットフィールド自身の研究および経験などを捉えることによって、なぜ会計学を専攻するに至ったかについて考察することを目的としている。

### 2 1890年代のシカゴとシカゴ大学

#### (1) 1890年代のシカゴ

1892年に、ハットフィールドがシカゴ大学の博士課程へ進んだ時には、シカゴは産業および文化の中心地として成熟していた。シカゴは、1871年の大火後、復旧へ向けての創造的エネルギーと市民としての矜持に満ち、産業および商業が復旧を願う市民などによって進展したのである。具体的には、サリヴァン Louis Sullivan、バーナム Danitell H. Burnham、ルート John Wellborn Root、ジェニー William Le Baron Jenney のような高名な建築家が、オフィスビルデザインの技術をもって大胆な試みを行っていた。また、シカゴは鉄道網の中心地として1880年代初期に馬車に取って代わったケーブルカーの斬新な鉄道の電化により世界で最も大規模な市街電車システムを発展させていた。そして、

平成16年4月10日受理

シカゴはコロンブスのアメリカ大陸発見400周年祭を称えたコロンブス記念世界博覧会を1893年5月から10月まで開催することにより、さらなる発展を遂げようとしていた。このような時に、ハットフィールドはシカゴ大学の博士課程へ進んだのである。

#### (2) シカゴ大学の発展

84,000人のシカゴ市民が、1857年の恐慌から脱しようともがいているときに、シカゴ大学は1858年に開校した。1850年代にシカゴ地域に創建した3番目の大学である。最初の大学はメソジスト派の大学であるノースウェスタン大学で1851年に開校された。シカゴの北30マイルのレークフォレストの都市に長老派の信徒によって設立されたレークフォレスト大学が2番目の大学として1857年に開校した。

シカゴ大学は、1871年のシカゴ大火と1873年の恐慌にもかかわらず経営を持続しようとしたが、財政上の失敗により断念せざるをえなかった。シカゴ大学は多大の債務を負うに至り、1886年に、その債務の支払を求められたとき、やむなく閉鎖した。

1890年にシカゴの人口は100万人に達し、その年の9月に新生シカゴ大学は、法人として組織された。シカゴのバプテスト社会のリーダーたちは、新生シカゴ大学を設立するため「世界で最も裕福なバプテスト」であるロックフェラー John D. Rockefeller から財政上の支援を取り付けた。ロックフェラーは、大学に600,000ドルを与え、聖書学者であるハーパー William Rainey Harper (1856—1906) は、学長の職を受諾した。

ハーパーは、ラフリン J. Laurence Laughlin (1850—1933) をコーネル大学から (19世紀の) 経済学に関する学科長と

して招聘した。ラフリンは、多様な個性およびイデオロギーの人と共に学科を構成し、准教授としてミラーAdolph C. Miller (1866—1953)、特別研究員としてヴェブレンThorstein B. Veblen (1857—1929)、個別指導教官としてコールドウェルWilliam Caldwell (ラフリンおよびミラーが経済学に関する関心を望んだ哲学者)を招聘した。

### 3 シカゴ大学博士課程における研究とワシントン大学での教師の経験

1892年に、ハットフィールドは、シカゴ大学で(19世紀の)経済学と政治学を研究テーマとして博士課程における研究を行なう決心をした。なぜなら、ノースウェスタン大学は、まだ少しも研究を発表していなかったシェパードRobert D. Sheppardのみを有しただけだったからである。ロックフェラーJohn D. Rockefellerの積極的な財政上の支援と共にハーパーが高名な教員を集めたことから考えても、ハットフィールドがシカゴを選択したことは賢明であったといえることができる。ハットフィールドは、博士課程の最初の年に次のコースを履修している。

#### 1892年の秋学期

(19世紀の)経済学原理Principles of Political Economy  
ミラー

鉄道輸送Railway Transportation ラフリン

シェイクスピア『あらし』解釈(最初の半期)

Shakespeare's "Tempest"

Interpreted (first half-term) モウトンR. G. Moulton

文学的名作と彼らの解釈(後の半期) Literary

Masterpieces and Their Interpretation モウトン

#### 1893年の冬学期

上級経済学Advanced Political Economy ミラー

税制Taxation ミラー

クーパー、コールリッジ、バーンズなどの詩に関する研究(最初の半期) Studies in Poetry of Cowper, Coleridge, Burns, etc. マクリントックW. D. McClintock

コース未詳の英語の題目 [Title of English course unknown] (後の半期) マクリントック

#### 1893年の春学期

社会主義Socialism ヴェブレン

アメリカ合衆国関税制度史Tariff History of the United States ミラー

経済理論の決着していない問題 Unsettled Problems of Economic Theory ラフリン

1893年の夏の間には何もコースが大学で開講されなかった。1893—1894年は、ハットフィールドは秋学期の間だけコースを履修し、次のもの選んでいる。

(国・地方公共団体などの)財政 [Public] Finance ミラー

貨幣と実用的経済学Money and Practical Economics ラフリン

比較政治学Comparative Politics ジャドソンHarry Pratt Judson

比較政治学は、ハットフィールドが政治学科で最初に履修したコースであった。1907年に、ハーパーの死後50歳で大学の学長になったジュドソンは、政治学の首席教授およびシカゴ大学の当初の構成員になる前はミネソタ大学の歴史教授であった。

1894年1月に、ハットフィールドはシカゴの博士プログラムから休暇をとり、教師としての経験を身につけるべく、(19世紀の)経済学の専任講師としてセントルイスにおけるワシントン大学の教員に加わった。その後の2年半の間に、彼はワシントン大学で教鞭をとった。過去において、夏学期はコースは設けられなかったが、1894年は重要な例外として夏学期に、彼はシカゴ大学で学生として次の3コースに登録した。

アメリカ合衆国の市民政治Civil Government in the United States ジャドソン

(19世紀の)経済学史History of Political Economy ミラー

(19世紀の)経済学の領域と方法Scope and Method of Political Economy コールドウェル

ワシントン大学で、教員として赴任したハットフィールドは1893—1894年度の後期およびそれに続く2年の間にコースを設けた。1894年の春に、彼は(19世紀の)経済学に関するコースおよび心理学に関するもう1つを開講した。次に続く各2年に、彼は次のような5コースの責任を負った。

- ・(19世紀の)経済学原理Principles of Political Economy
- ・上級経済学Advanced Political Economy
- ・記述的(19世紀の)経済学Descriptive Political Economy
- ・アメリカ合衆国財政史Financial History of the United States
- ・アメリカ合衆国関税史Tariff History of the United States

ラフリンの影響を証明するように、ハットフィールドは(19世紀の)経済学原理でミルJohn Stuart Mill (1806—1873)の『(19世紀の)経済学原理Principles of Political Economy』を用い、上級経済学ではマーシャルAlfred Marshall (1842—1924)の『原理Principles』を講じた。

ハットフィールドは、1896—1897年にワシントン大学からシカゴ大学へ戻る許可を得た。そして、学位論文に取り組み、11コースを履修した。そのコースは次のとおりである。

1896年の夏学期

国際法—戦争International Law—War ジャドソン  
アメリカ憲法 American Constitutional Law ジャドソン

1896年の秋学期

(19世紀の) 経済学史History of Political Economy ヴェブレ  
セミナーSeminar ラフリン  
アメリカ外交史Diplomatic History of the United States  
ジャドソン

1897年の冬学期

連邦行政Federal Administration ジェームス  
セミナーSeminar ラフリン  
(19世紀の) 経済学の範囲と方法Scope and Method of  
Political Economy ヴェブレ

1897年の春学期

19世紀ヨーロッパ外交史Diplomatic History of  
Europe, 19th Century ジャドソン  
セミナーSeminar ラフリン  
アメリカ農業American Agriculture ヴェブレ

1897年の秋に、ハットフィールドはワシントン大学に戻り、心理学に関するコースを設けた。彼のテキストは、ヘフディングHarald Hoffding『心理学概論Outines of Psychology』であった。1897—1898年に、彼は同様にハットフィールドが責任を負う広い範囲を説明するコースの次の範囲に設けた。

- ・初級経済学Elementary Economics
- ・アメリカ合衆国金融史Financial History of the United States
- ・上級経済学Advanced Economics
- ・貨幣と銀行業Money and Banking
- ・記述的経済学Descriptive Economics
- ・アメリカ合衆国関税制度史Tsriff History of the United States
- ・1763年以後の経済史Economic History since 1763
- ・社会経済学Social Economics

以上、見てきたとおり、シカゴ大学の博士課程の研究においても、ワシントン大学の教員としても会計学を専攻しようとした形跡はない。

#### 4 シカゴ大学の教員としてのハットフィールド

1898年の秋学期から、ハットフィールドは、開設して間もないCollege of Commerce and Politicsの教員となったのであるが、当時のシカゴ大学は、学部と大学院の相違がまだはっきりしていない状態であった。その状態は、商学部開設に向けての活動の変遷から見て取れる。1894年2月、ラフリンはSchool of Commerce and Industry開設案を理事会に提出し、College of Commerce and Industrial Scienceとして承認された。その後、School of Commercial and Political Scienceに見直され、さらにCollege of Commercial and Political Scienceと名称変更をした。そして、ようやく1898年にCollege of Commerce and Politicsとなったのである。

この学部 (College of Commerce and Politics) は、(19世紀の) 経済学、政治学、歴史学、社会学の4学科からなっており、ハットフィールドは (19世紀の) 経済学および政治学の教員になっている。なぜシカゴ大学の教員になったのかについては明らかでない。シカゴ大学において博士課程における研究をしたハットフィールドが、慣れ親しんだ環境を好み、既知の同僚からさらなる助言を受け、自身の研究を進めようとしたと考えるのは不自然なことではない。

ハットフィールドは、1898—1901年の3年間に次の8コースを担当している。

- ・アメリカ合衆国の市民政治Civil Government in the United States
- ・記述的経済学Descriptive Economics
- ・社会経済学Social Economics
- ・主要な産業の経過Processes of Leading Industries
- ・アメリカ憲法American Constitutional Law
- ・(19世紀の) 経済学原理Principles of Political Economy
- ・商業地理学Commercial Geography
- ・取引および商業の技術Technique of Trade and Commerce

「主要な産業の経過」を除いたすべてのコースは (19世紀の) 経済学および政治学分野の教育課程を主唱するものであった。ここで大いに注目しなければならない点がある。それは、実際には中止されてしまったが、ハットフィールドが1898—1899年に開講する予定であった「鉄道会計、取引所など—講義、解釈、報告」と名付けられた新しいコースである<sup>(4)</sup>。その内容は、1897—1898年のシカゴ大学の年間記録Annual Register of the University of Chicagoの中で次のように記述されている。

「計算書の分析および検査によって明らかにされた主な鉄道の財務方法を整備する研究である。投資者および経営者の両者の利害関係に関して、鉄道会計および監査の方法に関する訓練は価値を有するものとなるだろうが、これは鉄道経営の一般の問題を扱うコースを受講した後にのみ、

意味のあるものとなる（コース30および31）。

この修練と共に、類似のトピックスを分類し、学生が、州および自治都市の種々の型式による社債および有価証券の価格を規制する原因である社債テーブルの構造の研究に関して知識を得るであろう。

これは、重要な会計学の意義を有するハットフィールドによって設けられた最初のコースであった。コースの主要な部分は、過去において、義理の兄の銀行業を手伝った経験をもとにしたハットフィールドの論文研究に起因すると思われる。とはいえ、そのコースが計算書と監査の方法の理解に関して投資者および経営者の両者へ重要性を強調することが予定されていたことは興味深い。会計学の問題は、1897—1898年のハーパーとの往復文書の中でカリキュラムとして言及されなかったからである。彼がその問題に関するコースを受けていなかったことから、義理の兄が経営したS. A. Kean & Co.の計算書と共にそこで働いたハットフィールドの経験はおそらく彼に課題を与えた。ハットフィールドは、ハーパー学長との往復文書の中で計算書に関する彼の実務的知識を誇示した。ラフリンはそれを見ている。数年後、ハットフィールドは、なぜ会計学の方へ進んだかについて、メディアのインタヴューアーに語っている。

「なぜ会計学を専攻することになったのかと尋ねると、ハットフィールド教授は『精神的に駆りたてること *inne surge*』としてイメージを喚起するなにかとの関係を否認し、それが偶然のできごとであったと述べた。その当局は、ビジネスコースを大学のカリキュラムの中に置くべきであると判断し、彼は以前の事業経験を求められたのである」。

外見上、鉄道会計コースに取って代わるものとして、「取引と商業の技術。一度量衡；関税規則；取引および相場、商業文書、国内外の交易、財務諸表、投資有価証券、保険など」が、1901年の春学期にハットフィールドによって初めて設けられた。その内容は次のとおりである。

「学生が、実際の形式および方法に精通する試みは現代の交易で用いられた。特別な注意は、鉄道および他の会社の財務諸表の解釈が示されるだろうし、為替の構造および度量衡の換算表、為替売買人、社債評価、年金計算表などである」。

設けられることのなかった鉄道会計と対照してみると、取引と商業の技術はさほど会計学の重要性を含んでいないと思われる。1901—1902年より学部の教養課程の中の単なるコースであったけれども、いくつかの会計学の意義を持っているとされる。

1900—1901年は、ハットフィールドの進化の中核である。1890年代初期にヨーロッパの大学の視察を著したジェームスによる影響らしく、ハットフィールドは冬学期の間に彼自身（自費で）の3ヶ月のヨーロッパ視察を行った。10月の始めに出発し、1901年1月中旬にアメリカ合衆国に戻った。彼はベルギー、フランス、ドイツで過ごした。3月の

終わりの大学への彼の復帰で、彼は報道機関からインタビューを受けた。*The Chicago Sunday Tribune*の記者は書いた。

「視察の結果として、ハットフィールドはいくつかの革新およびCollege of Commerce and Administrationとして知られる新しい学科の一時的な見通しを披露するだろう。この学科に関する作業はいまだ完全にまとめあげられていないが、ハットフィールド教授の復帰と共に歩みはヨーロッパの学校の標準として知られる新しい学科の趣意書を導入するだろう」。

新しい報告の中で、ハットフィールドは学部のための提議の概略を述べた。

「シカゴでのシステムの考えは、ビジネスと同様に専門職の経歴のために学生を適合させるよう教育課程の計画を提供することである。これを実行するのにわれわれは通常のビジネス学部を設置することを願うが、しかし大学院は学生の発達の手助けをするだろう。直接じかの注意は現代の言語に利益を与えられる。これは必要であり、アメリカ合衆国は世界の商業の長となるだろう。この仕事は英語でのドリルを含む。コースは現代史で述べられるだろう、特にアメリカに関係する。物理学、化学、数学に関する初級コースが提供されるだろうし、ならびに同じ主題に関する上級コース、特別の注意は（19世紀の）経済学に利益をもたらすだろう。法、コマーシャルおよび入会権が教えられよう」。

わたしの仕事は商業史、商業上の地理学、商業技術、ビジネス組織という新しいコースを含むだろう」。

異なる新聞の中に現れた関心事に関するまたはもう1つの報告に関する人跡未踏の地は言及された会計学であった。それにもかかわらず、1937年に書かれた手紙の中で、ハットフィールドは、ヨーロッパへの彼の視察の「結果として」彼が会計学に関するコースを創り出したことを想起した。

「初期段階は弱々しかった。私はあなたが1898—1901年のコースを無視できると思っている。私は6ヶ月の休暇から1901年4月に大学に戻った。私がフランスとドイツの商学部が実行することを見るためにヨーロッパへ行った間に。結果として私は会計学を設けた。私が1904年1月にカリフォルニアへ向かってシカゴを去るまでそのコースを供給し続けた。私たちは教科書を使わなかった。そのクラスは小規模であった。私は主としてシェアの初期の著作を奉じた」。

1901—1902学年度に、（19世紀の）経済学科の設置と共にハットフィールドの教員の肩書は商業に関する専任講師となった。彼は自らの教員の地位の「商業」と共に（19世紀の）経済学および政治学に関する学科の単独のメンバーであった。ハットフィールドは学部の計画に最も関係した教

員メンバーであった。

1901—1902年に、(19世紀の)経済学の原理に関する夏の講義科目を除いて、ハットフィールドの全授業負担は、商業地理学、会計学、近代産業、銀行業(後者の3つはすべて新しいコース)、商業の取引の技術といった商業コースであった。ターナーTurnerはハットフィールドについて次のように書いている。

「大学での彼の時代で多数の異なるコースに取り組んだ、そのため商業の研究に関する革新は多くの場合直接彼のためであった」。

ハットフィールドがヨーロッパから復帰して作り出したコースである会計学の記述は次のとおりである。

「会計学—基礎をなす原理の研究。財務諸表の専門的監査人の手引の下いくつかの実施仕事を示されるだろうが、講義の中で論議された原理を説明する見解のみ。強調は貸借対照表の解釈およびその中に含まれたその問題に置くだろう」。

これは、アーネットと共に記述されている。イングランドに生まれたアーネットTrevor Arnett (1870—1955)は、1899—1900年にシカゴ大学の主要な会計士であり、1901年から1922年にはその監査人であった。彼は会計士であった。1893年から1896年にChicago & Great Western Railwayの監査人の事務所の主な事務員である。1898—1899年にハットフィールドのクラスの2つの学生だった(彼は1898年にシカゴから学士号を受けたのではあるが)。5人の学生はコースに登録した、1人はそれをやめた。ハットフィールドは単にもう1度そのコースを設けた、1902—1903年の冬学期に、それは簿記の専門的準備よりもむしろ実務家のために有用なものとして強調した記述を伝えた。

「会計学—職業的記帳係よりも実務家の観点のポイントからの基礎的原理の研究。考察は鉄道会社および他の会社の公表された財務諸表をつくるだろう、強調は貸借対照表の解釈およびその中に含まれたその問題に置かれるだろう。専門科である監査人の指導の下実践作業は行われ、記帳係として学生の訓練の目的だけでなく、教室内で議論された原理を説明する」。

## 5 ジェームズとシェアーの役割

ペンシルヴェニア大学で1881年に開かれた(当時知られていた)金融および経済のウォートン・スクールの教員メンバーのジェームズEdmund Janes James (1855—1925年)が、1896年にシカゴ大学の政治学の教員として加わった。ドイツで博士号を取得したジェームズは、1885年にアメリカ経済学会を共同創立し、1889年にアメリカ政治学および社会学協会を創立した。アメリカ銀行家協会(American Bankers' Association, 以下、ABA)のたつての頼みで、ジェームズは実務家を育成するための機関を研究するためヨーロッパへ行った。彼の報告「ヨーロッパでの実務家の

育成Education of Business Men in Europe」は、1893年にABAによって公表され、広くいきわたった関心をひきつけた。疑問の余地なく、彼はアメリカの大学のビジネス教育を導入する初期の動向で先導する人物の1人であった。(ジェームズはノースウェスタン大学の学長になるために1902年にシカゴを去り、1904年に彼はイリノイ大学の学長になった)。シカゴ大学での専任講師、助教授、学部長としての6年間(1898—1904年)に、ハットフィールドは、おそらく同僚のジェームズJames, E. J. から影響を受けたように思われる。そしてそのうえ、彼自身で断言したとして、シェアーSchar, J. F. (1846—1924年)の著作に大いに影響されている。

ジェームズは、1880年代から20世紀最初の10年間にかけてアメリカ合衆国で高等商業教育の抜群の唱道者であった。彼は一流のアメリカのビジネススクール、ウォートン金融・経済学校にて先導する役割を果たし、ヨーロッパで商業教育の中で作り上げられた進歩に関する小研究論文を書いた。彼は熱心に考察をし、強い個性をもっていたことは、彼の出版した著作の大胆な主張から認識することができる。

それにもかかわらず、大学でのジェームズの地位は異常であった。ラフリンは、なぜジェームズが公開教育部門の教授として1895—1896年の彼の最初の年に過ごしたか説明している。1895年に彼の当初の役職に反対され、翌年、ジェームズは彼の専攻が(19世紀の)経済学であるのに政治学部の教授職を受諾した。

バーバーBarberは書いた。「ハーバーHarperがジェームズの研究課題を手配するときラフリンに関して明確に指導した」。ジェームズの伝記作家は書いた。「彼のシカゴの年は柔らかな調子と思われる。彼らの主要な点は問題と高等な知識の潜在性に関係がある」。

ラフリンは、学部からジェームズを遠ざけた。1901年に、ハーバー学長は、ジェームズを学部との係わり合い、専門職の修業としての学部の可能な限りの再編成を目的とする委員会へ、なぜジェームズが1901年に評議員会により任命されたのか、彼は、首席教授でなかった唯一のメンバーであった。記録資料となる証拠が欠けているが、おそらくジェームズは、政治学科の彼の若い同僚であるハットフィールドに商業科課程の進化に関する事柄について助言したように思われる。この結論は4つの所見に基づいている。第1に、1898年にハットフィールドはアメリカ経済学会へ入会したことである。ジェームズ、ハットフィールドの学科長であるラフリンが、最後に会員を申し込んだ1904年までその学会と関係することを断っているのにである。第2に、ジェームズとハットフィールドは、実務家の教育的な準備に関する関心を共にした。ハットフィールドが、会計士および保険専門家といった技術的専門家の成長に同じく関係があるからである。第3に、会計学の授業に関するジェームズの考察が、ハットフィールドに影響を及ぼしたように思われる。会計学に関するハットフィールドの素養が、S. A. Kean & Co.の勘定のもと記録係としての彼の経験に限

られたとはいえ、ジェームズは、ウォートン・スクールで簿記と会計学の数名の教師の仕事を監督した。ジェームズは簿記の技術のことを長々と考え提供するコースを信頼していない。以下に見られるようにハットフィールドもまたそうである。1888年に、ジェームズは（彼が立証した）会計学に関するウォートン・コースの次に続く叙述を示した。

「会計学理論に関するコースは3年生の間1週間に4時間を当てられた。実務の仕事は、主題に関する理論上の解釈とすべての特別の体系の基礎となる一般原則を理解することが必要であることにに関してのみ主張された」。

ハットフィールドがシカゴ大学で関連した2つの会計学コースの叙述は同様のものである。第4に、ジェームズは、学校の聴衆に向けて話すときでさえ、実務的主题に関する教育のメリットを自慢することを嫌がらなかった。とりわけ、彼は高い関心の中で会計学を考えた。アメリカ経済学会への1900年の演説の中でジェームズは述べた。

「私は、まじめで知的な研究をされなければならないどんな実務的問題をも受け入れただろう、もしそうすることによって、私は実務的知識および増進を助長することができた。このように、例えば、会計学の全システム、冷笑する意味で「簿記」と呼んだのは少しだけである」。

見つけ出されることができたその時代のほんの少数の教育者は、会計学研究の本質的な価値をこういう熱烈な支持を述べただろう。ジェームズは、ハットフィールドに高等な商業教育の会計学教育の重要性を十分に認識させただろう。

ジェームズとハットフィールドの両者の決定的な関連の1つは、注目する価値がある。ジェームズは、多分ヨーロッパで商業教育を研究するハットフィールドの決意で重要な役割を演じた。1900—1901年の冬の3ヶ月のヨーロッパ視察の間に、ドイツ語が熟達したハットフィールドは、1898年4月に設立された最初のドイツのビジネススクール、すなわち*Handelshochschule*であるライプツィヒで大抵の時間を過ごしたように思われる。彼は、「第1次世界大戦(1914—1918)前のドイツ時代の最も重要な会計学の理論家」であると言われたシェアーJ. F. Scharの『簿記の科学的取扱いの試み*Versuch einer wissenschaftlichen Behandlung der Buchhaltung*』(簿記の扱ひの科学的な分析の試み)(バーゼル、1890年)を読んだ。大学教育に欠けているとはいっても。スイス人のシェアーは、初等学校の教師になって研究した。1903年のチューリヒ大学および1906年のベルリン商科大学においての知的職業の地位に変わる前にバーゼルの中等商業学校の教師として商業に関して雇用された。

ライプツィヒ大学と提携されたライプツィヒ商科大学は、20世紀の初期に会計学を専攻する最も有名なドイツのビジネス経済学者の中に適するように予定された学生を誘引した。シュマーレンバッハEugen Schmalenbach、パペErnst Pape、ニクリッシュHeinrich Nichlisch、グロスマン

Hermann Grossmann、ペンドルフBalduin Penndorfは、ハットフィールドの到着の数ヶ月前の1900年の春に商科大学を卒業した。ハットフィールドは、ドイツの商業教育に関する先駆的な発達について直接学ぶためのより幸運な時間を選択することがほとんどできなかった。

1902—1903年の間のシカゴ大学の*Register*の中の彼の略歴において、ハットフィールドは次の注釈を挿入した。「学生、ライプツィヒ大学、1900年」。単式および複式簿記に関するシェアーの論文の彼の解釈において、ハットフィールドは、大抵のアメリカの教科書で使用された「単純素朴な人格主義の学説」より遠い複式簿記の理論を発見した。シェアーのアプローチは、彼に訴えた。なぜなら、簿記を熟考したからであった。

## 6 おわりに

以上、見てきたように1890年代のシカゴは産業と文化の中心地として成熟し、さらに発展しようとしていた。その時、ハットフィールドはシカゴ大学の博士課程へ進み、ラフリンやヴェブレンに学んだ後、シカゴ大学の教員となった。本稿でも明らかなおと、ジェームズとの出会いがハットフィールドに会計学を専攻させ、ジェームズと同様のヨーロッパ研修を行ったことによりシェアーの影響を受けることとなったのである。しかし、ハットフィールドによっては偶然であったかもしれないが、シカゴという環境、そして会計学の台頭が必然的にハットフィールドに会計学を専攻させたともみることでもあるのではないかとも思うのである。

### 【参考文献】

- 中村萬次 [1994] 『米国鉄道会計史研究』同文館。  
Zeff, Stephan A. [2000] *Henry Rand Hatfield: Humanist, Scholar, and Accounting Educator*, JAI Press Inc.

### 註

- 1 中村 [1994] pp.11-12.中村萬次教授は、この当時の鉄道会計について次のように述べられている。「アメリカにおける最初の鉄道は1830年に開通したBaltimore and Ohio Railroadである。同鉄道の成功は、東部大西洋海岸諸都市を起点とする鉄道建設ブームを呼んだ。鉄道は、州または市が建設し、運営していたが、1837年の経済恐慌によって、以後は民間の経営するところとなった。初期における鉄道会社の設立は、州議会による個別認可制であり、その基礎条件は、運賃統制を含むが、むしろ鉄道事業の資本化への支援が中心であった。Baltimore and Ohio Railroad (1830年)、Boston and Worcester Railroad (1839年)の許可は、個別法によった。ヴァージニア州法(1837年)においては、鉄道業の年次報告書の提出を規定している。マサチューセッツ州鉄道法(1846年)では、法の定める委員会に対して貸借対照表および損益計算書の作成および諸帳簿の提示を義務(拒絶のときは罰金\$5,000)づけている。ニューヨーク州鉄道法(1850年)では、年次報告書を州に提出することを命じ、減価償却規定を含む報告内容を詳細に羅列している。かくてこれら州による鉄道法は、アメリカ鉄道会社の年次報告書統一化の推進に貢献することとなった。鉄道建設への一般的拘束は、1860年代以後である。

拘束の基底にはUnion Pacific Railroadおよび、Central Pacific Railroadによる最初の大横断鉄道完成後の鉄道建設ブーム、それに随伴する物財および住民の移動、インフレーション等による経済的諸矛盾があった。鉄道建設ブームは、1866年にはじまり、1873年に絶頂に達した。起業者による株式の水増、過大資本化、創業者利得の取得等が行われた。ブームの沈静によって鉄道証券は暴落し、1873年の恐慌を引起すひとつの契機とさえなった。加えて鉄道相互間の激しい運賃競争は、多くの鉄道会社を破産させた。弱小鉄道は、発行証券を安価で提供することによって、大会社に従属するか、吸収された。リースや子会社会計、あるいは証券の評価や、擬制資本の貸借対照表能力を巡る論議が、新たな会計課題となった。かくて1879年に、サラトガ協約 (Saratoga Convention) による鉄道規制が成立し、鉄道会社の財務と運賃についての情報の提出が必要となった。それはマサチューセッツ州鉄道会社条例に次いで、アメリカにおける鉄道会社規制の第2の道標となった。

第3の道標は、1887年の州際商業法による会計規制である。この規制の成立をもたらした背景には、大鉄道会社の独占的行動、すなわち証券の不当な操作、農民に対する差別料金、プーリング等による鉄道利用者への齟齬せが、グレンジャー運動に見られるように鉄道への反感を助長し、やがてそれが沿線住民や鉄道従業員のストライキをも巻き込んだ市民暴動にまで発展してきたことにあった。州際商業法は、プーリング、運賃協定、特別料金、リベートその他の形態による差別待遇を禁止した。さらにまた、合理的かつ公正な運賃の決定に連邦政府が干渉するために、必要な財務・営業・運賃および諸規定についての詳細な年次報告書を、所定の様式で提出することを命じた。かくて適正運賃とは何か、その原価構成要素の範囲をどう決めるのか、鉄道業の適正利益をどのようにして計上するか等についての議論を生んだ。その算定基準となる投下資本額の測定のため、貸借対照表における有形固定資産の実価を公示させることとなったのである。1893年の恐慌によって弱小鉄道会社の多くが倒産し、鉄道の独占的再編成が押し進められた。鉄道の再編成過程において「ルーズな会計」「欺瞞に満ちた会計」が暴落された。巨大な鉄道会社は、運賃改定の基準を高額に維持するため、新資産を費用化するよりも、むしろ資産化する政策を採用した。統制機関は、設備投資の原初原価、あるいは現在価格に多くの注意を払っていた。しかし、鉄道側は、物価下落時には原価基準によって、物価上昇時には時価基準によって、運賃を決定することを主張し、利用者と対立した。裁判所は、鉄道側の利益を保障するための最低賃金と、利用者側の権利を保護するための最高運賃との間に「公正な運賃」を決めるのが良いと考えていた。資本的収入および資本的支出を重視する行政措置が、鉄道会社において費用的支出を資本化する会計政策と採らしめることとなったのである。